

街のあちこちで目にする自動販売機。飲料や食品、切符などを販売し、私たちの生活には欠かせない存在だ。国内の生産台数は2021年が約16万台(経済産業省)。普及台数は同年12月末時点で約270万台(日本自動販売システム機械工業会)とのことである。

県北勢地域には、大手電機メーカーの主力工場が立地し、部品や付属品を含め自販機関連を製造する事業所が12カ所ある(「令和3年経済センサス」総務省・経済産業省)。それによると、出荷額は全国のお5割超を占め、自販機の多くがMADE IN MIE(メイド・イン・ミエ)ということになる。

自販機は、時代とともに進化を続けており、単に商品を売るだけでなく、スマートフォンなどの機能をいかに搭載するかが製品開発のポイントとなっている。

電子マネーの決済機能のほか、公衆無線LANや災害時に飲料を提供する機能、地域防犯に役立つ

カメラ機能など、多様な機器が設置されている。携帯電話の位置情報ゲーム内にアイテムの入手スポットとして登場したり、オリジナルのデザインで地域をPRしたりするものや、売り上げの一部を社会貢献活動に寄付する取り組みもある。

この数年は特に、全国的にいつぶう変わった面白い自販機が注目されるようになった。コロナ禍で、非対面の販売方法として飲食店などで設置されたものが多い。

三重県観光連盟ホームページ「観光三重」には、伊勢うどんやしょうゆ、四日市とんてき、天巻き、和菓子、ケーキなどの自販機が紹介されている。店舗の営業時間外でも気兼ねなく利用できる、物珍しさから買ってみる人もいるようだ。各地の珍しい自販機をSNSなどで発信する愛好家もみられる。県内のご当地自販機が、観光客の立ち寄り先として定着すれば面白い。